

目は口ほどにものを言う

毎朝一緒に生徒たちの登校を見届けているIさんが、ほとんどの生徒が私たちの前を通り過ぎてから私に話かけてくれました。「おはよう」と声をかけても（あいさつが）返ってこなかった女の子が、私の方を見てあいさつしてくれましたよ！」

Iさんはとてもうれしそうでした。毎日毎日北中生の安全を見届けてくれる彼にとって、最高の見返りがあいさつです。それを楽しみにして、彼は四年も同じところに立ち続けています。

Iさんは補聴器を使っています。聞こえにやや難があるようです。彼は「あいさつが返ってこなかった女の子」と言いましたが、その子の声が彼には届きにくかった可能性があります。車が通って行った時や、話しかける位置が悪いと、彼から返事がかえってこないことがたまにあります。したがって、Iさんと話す時には、意識的に大きな声を出し、なるべく正対して話すように私は心がけています。

今回のIさんの感動は、あいさつをした女子生徒の顔の向きが大きく関係していると思います。聞こえにくい状況の中では、声だけを頼りにするのではなく、向きや表情で相手に迫ることが効果的です。自分の方を見てくれたという喜びが、彼の中で女子生徒の声を増幅させ、それが届いたのではないのでしょうか。

皆さんは相手の顔を見てあいさつしていますか。アイコンタクトが抵抗なくとれていますか。昔から「目は口ほどにものを言う」と言います。コミュニケーションに必要なものは口、つまり言葉かもしれませんが、それをより効果的に演出するのが目、つまり視線です。時には、その視線さえあれば、相手に思いが伝わることもあります。目にはそういう力があるのです。

私には、練習ではなく、本物の試験の面接官をやった経験があります。初めて会う人を短い時間で評価するのは非常に難しいものです。もちろん質問の受け答えの仕方や内容も大切ですが、何よりも大切なのはやはり姿勢ですね。中でも視線は、その人の印象を決定づける大きな力があるとしみじみ思いました。

面接を受けた人の中にはいろんな目の動きがありました。視線が定まらない、俗に言う「目が泳ぐ」という人には、やはり心からの信頼はおけませんね。視線が合わない人も「大丈夫かな」という思いが先行してしまいます。すぐに目を切る人には、自信というものを感しません。「目は口ほどにものを言う」まさにその通りです。

Iさんに言葉を届けるだけでなく、視線も向けられたこの女子生徒の変化は小さなものかもしれませんが、しかし、大きな成長だと私は思います。相手にしっかり視線を向けて語ることができたその次は、ニコツと笑顔を届けることです。そこまでできれば「鬼に金棒」、立派に世の中渡っていけると思いますよ。あなたは地域の中でどのようなあいさつをしていますか。面識のない人にも言葉と共に視線も届けていますか。